

# 持続可能な鶴岡・山形をつくらう！

自然と共生・いのち優先。鶴岡の森・川・里・海・水を守り、活かす。草島進一 7つの政策。

## 1 「いのち」と「きずな」暮らしを守る

「福祉・医療・介護・子育て」「格差＝不平等」を是正

- 子供の貧困・格差拡大問題の解決に取り組みます
- ひきこもり支援対策を更に充実（県委託のNPOによる相談窓口を既に実現）
- 地域の空き家等を活用、赤ちゃんからお年寄りまで誰でもケアできる「富山型共生デイサービス」の設置を促進

## 2 「想定外」をつくらない防災

ハード、ソフト両面の「防災力」「流域治水」「土地利用規制」

- 被災地での現場経験を活かし最善の防災、被災者支援方策、災害ボランティアとの協働方策を提案
- 「地先の安全度マップ」「土地利用規制」等、縦割りを超えた「流域治水政策」を実現

## 3 「行政改革」「議会改革」ムダを削る

しがらみのない「チェックマン」を県政に

- 既得権益や前例踏襲主義を廃し、切磋琢磨する議会へ
- 全国の有識者のネットワークで公共事業をチェックし、政策を提言

## 4 農林水産業・地域産業・観光の活性化

絆の強い農業「農商工観連携」「国際観光都市」で価値を創造

- 生産者と消費者が支え合う農業（CSA）で小規模家族農業を守り、在来作物栽培、有機農業を推進
- 「ユネスコ食文化創造都市」を活かし国際「観光＝感幸」交流都市・鶴岡へ
- 食品、伝統工芸品、手業、地場産業やIT等の地域内異業種連携で高付加価値商品の創造や新規起業を支援

## 5 「自然エネルギー」「省エネ改修」「森林再生」で雇用創出

「持続可能な社会」を目指す公共事業へ転換

- 鶴岡の森林資源を活かした木造公共建築を増やし、薪やチップ等のバイオマスで「地域暖房モデル」を創出
- 地域主導で小水力、風力、太陽光、バイオマス等の自然エネルギー（コミュニティパワー）開発を推進
- 「つくるから直す」空き屋対策、省エネ改修、耐震改修、インフラの計画的な修繕、更新で雇用創出

## 6 自然の恵み、地下水や清流を次世代に

ふるさとの水、自然の美しさや生物多様性を守り活かす、自然資本経営

- 広域水道事業は政策を見直し、地下水や緩速濾過浄水を優先に おいしい水をより安く提供できる水道へ
- 鶴岡の食文化を支えてきた赤川扇状地の地下水資源は今、無秩序状態 「地下水保全条例」の創設
- 森・川・里・海の連環を保全、再生し、県魚サクラマスやアユを守り、豊かな川や海を次世代に

## 7 未来をひらく、広い視野と人間力を育む教育

自然体験・ボランティア体験・読育・食育・特別支援学校の充実

- 地域を担う人づくりのためのESD（持続可能な開発のための教育）環境教育、国際教育、地域学の充実
- いじめ問題の根本解決のためにEQ（こころの知能指数）を高めるSEL（社会性と情動の学習）の普及
- 山形県を読書県へ 公立図書館・学校図書館の充実

# 持続可能な社会を実現するために 鶴岡自給圏構想

鶴岡市は今、年間約1,000人ずつ人口が減り、地域消費が年12億円減っています。暖房用の灯油だけでも55億円が流出しています。グローバル経済の下で農業、地域の産業が厳しい局面を迎えています。

構想では、鶴岡をひとつの「自給圏」と設定し、圏外への資源・エネルギーの依存度を減らし地域資源を利用・代替することにより地域に産業を興し、雇用を生み、富の流出を防ぎます。

エネルギー自立や食の地産池消で経済の好循環を生み出し、真の豊かな地域社会を実現することが目的です。

鶴岡の森・川・里・海の豊かな恵み（自然資本）や伝統文化を見つめ、絆の力で新たな価値をつくり、魅力を発信し続ける。そして交流や移住を促す「世界に開かれた自給圏」を目指します。

みなさん一人一人の行動で、地域社会は大きく変わります。

